

第2学年 国語科の実践

1. 単元名 そうぞうしたことを、音読げきであらわそう 「お手紙」(全13時間 本時8時間目)

2. 単元目標

- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
- 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。

3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて…子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり
低学年ブロックテーマ 「感じる心、素直に表現する自分」
・人の言動に何かを感じる姿
・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

〈聴く・話すについての指導〉

4月に、みんなに話すときの「きき手名人」「話し手名人」「はんのう名人」になるときに気をつけることを考えた。

「聴く」ときには、特に「きき手名人」を意識して、相手を見ながら聴くことを繰り返し指導しており、さらに「はんのう名人」として、友達の言葉を聞いて自分なりに反応すると良いことを伝えている。「名人」の型を教室に掲示したり、よい反応を取り上げて日々追加したりしていくことで、様々な考えについて一人一人が考えをもつことができるようにしていきたい。

「話す」については、みんなの方を向くよう繰り返し指導しているところである。

〈これまでの関わり合い・ひびき合い〉

友達との関わりを増やすために、ペアで相談をしたり、教室を歩き回ってより多くの友達と話して意見を交わしたり、グループで学習したりする機会を多く取り入れるようにした。ペア学習では、繰り返し行っているうちに「じゃあ、ぼくからね。」など、スムーズに自分の考えを伝え合う姿が見られるようになってきた。相手の考えについて反応を返せるように、教師が「どう思った？」などと促し、相手に感想を伝えられるようにしている。

生活科では、「学校を1年生に紹介したい」という思いから、学校の様々な場所をグループごとに紹介する動画を撮ることになった。「声が大きくてよかった。」「『次の教室もお楽しみに』っていう言葉が良かった。」「クイズがあって楽しく聞けた。」「もう少しゆっくり言った方がいい。」など、紹介するところをみんなで見合い、より良い紹介の仕方を考えることができた。今回は、他のグループの音読劇を見合うことで、良いところやこれからの課題をクラス全体で共有し、より良い表現方法を話し合えるようにしていきたい。

4. 単元と指導

〈単元について〉

本単元は、「スイミー」に続き、場面の様子などの叙述を基に、主人公などの登場人物について、何をしたのか、どのような表情・口調・様子だったのかなどを具体的にイメージしたり、行動の理由を想像したりすることをめあてとしている。

本教材「お手紙」は、がまくんとかえるくんの行動と会話を中心に、二人の友情について描かれた作品である。

行動と会話の中に人物の人柄が表れており、人物の様子や感情の移り変わりを読み取りやすい。挿絵は、場面ごとの人物の気持ちを豊かに想像する手掛かりとなっている。物語を音読したり演じたりすることを通して、楽しみながら想像を広げ、読み深めていきたい。

〈指導について〉

今までの経験や、台詞が多くテンポの良い展開の教材であることから、子どもたちは「劇をしたい」という思いをもち、「上手に音読劇をするためにはどうすればいいのだろう？」と考えるようになるだろう。そこで、劇に必要なことは何かを子どもたちに考えさせて、グループに分かれることや役決めをすること、登場人物の行動や気持ちを考えることが必要だということを自然に引き出し、子どもたちが目的をもって主体的に学習できるようにする。

練習をする前に本文を読み、登場人物を演じるためのポイントとなる部分に線を引く時間を設定することで、何に気をつけてどのように練習すればよいのかを意識させたい。気持ちを考えるときには、「スイミー」の学習で使った「ハートメーター」でがまくんとかえるくんの心情を視覚的に表していく。「スイミー」の学習では、場面ごとにメーターを使ってスイミーの心情を表し、だんだんと元気を取り戻す様子を表した。場面ごとの登場人物の気持ちの移り変わりに気付けるようにするための手立てとしていく。さらに、グループで練習した音読劇をみんなで見合い、自分たちの練習と比較して合致や違いを話し合うことで、がまくんとかえるくんの行動についてより深く考えられるようにしていきたい。

本時では、3 場面までのがまくんの気持ちと 4 場面のがまくんの気持ちの変化から、「がまくんの台詞はどう話せばいいのかな。」という問題が出てくるであろう。そこで、「でも、来やしないよ。」という言葉にこめられたがまくんの気持ちを、前時までのがまくんの行動と会話をもとに伝え合い共有する姿をひびき合いの姿としたい。この台詞は、言葉だけ読めば怒っているようにとれる台詞だが、それまでの話から、待っても待ってもお手紙が来ないというがまくんの悲しみや諦めの気持ちがにじみ出ている台詞でもある。なぜそのように読むのかを伝え合いながら、怒ったように読むことも悲しそうに読むことも、どちらも「お手紙が欲しい」というがまくんの気持ちが込められたものであり、その後の「きみが。」という、初めて自分あての手紙を書いてもらったことに感動するがまくんの台詞につながっていくことに気付かせたい。

5. 単元構想 第2学年国語科 そうぞうしたことを、音読げきであらわそう「お手紙」全13時間 本時8時間目

単元目標

- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
- 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。

お手紙をもらったことはあるかな？

- ・ある。・年賀状。・うれしかった。
- ・おじいちゃんとおばあちゃんに書いたことがある。喜んでくれた。

「お手紙」はどんなお話だろう①②

題名から

- ・お手紙を出し合う話。・かえるの絵があるよ。
- ・お手紙が届くんじゃないかな。・本を持ってる。

本文から

- ・がまくんが手紙をもらえてよかった。・かえるくんはやさしい。
- ・最初は悲しかったのに、最後にかえるくんと待つのが悲しそうじゃない。・四日も話してるのがおもしろい。
- ・手紙を一度ももらったことがないんで、がまくんはかわいそう。・かえるくんも悲しくなったのはなんでだろう。
- ・かえるくんはなんでかたつむりくんの手紙を渡したんだろう。遅いの。・なんで(手紙を)自分で渡さないの。
- ・かたつむりくん、「すぐやるぜ。」って言ってたのに、すぐじゃないよ。・かたつむりくんに渡したところがおもしろかった。
- ・がまくん頑固すぎ。かえるくんが呼んでも、なかなか出てきてくれなかった。
- ・かえるくんは、どうしてがまがえるくんの手紙が来ることを言っちゃったんだろう。
- ・もう少し待てばよかったのに。・サプライズだったのに。台無し。
- ・音読したい。・劇にしたい。
- ・そのためには役割を決めないと。・道具も必要だよ。
- ・どうやって動くか確かめないと。
- ・台詞を分けなきゃ。
- ・言い方を工夫する。・なりきってやる。
- ・気持ちを考える。・練習する。
- ・かえるくんの手紙を書きたい。

気持ちが表れるような読み方には、どのようなものがあるかを確認しておく。

一場面の音読劇練習をしよう④⑤

- ・がまくん役は悲しそうにしないといけないよ。
- ・がまくんが悲しそうで良かった。
- ・落ち込んだ感じに言った方がいいよ。
- ・がっかり。泣いちゃう感じ。・つらい。
- ・弱く言う感じ。小さく落ち込んで。
- ・「ふしあわせ」って言うてるよ。・悲しいのと同じ。
- ・一度も手紙をもらったことがないから。・手紙がほしいんだよ。
- ・かえるくんは、最初、どんな感じに言えればいいんだろう。
- ・どこから悲しそうなかな。・最初は悲しくない。
- ・がまくんの言葉を聞いて、かえるくんもかわいそうって思ったんだよ。
- ・「いちどもかい？」も、まだがまくんに聞いてるよ。・首をひねる感じ。
- ・がまくんの悲しい理由が分かってから。・「たずねました」だから聞いている感じ。

音読劇をしよう③

- ・グループでやろう。・3～4人でいいんじゃない？
- ・がまくんやりたい。
- ・長い。・分けて練習した方がいいよ。
- ・かえるくんが帰ったところで分けられそう。

一場面	お手紙を待つがまくん
二場面	お手紙を書くかえるくん
三場面	お手紙を待つかえるくんとお手紙が来なくて落ち込んでいるがまくん
四場面	がまくんにお手紙を書いたことを伝えるかえるくん
五場面	幸せな気持ちで手紙を待つがまくんとかえるくん

場面や登場人物の行動・言葉を確認する。

音読をする際に本文からポイントになる言葉を探し、各場面で練習をする。

がまくんとかえるくんの行動やその理由、様子などを想像して、表現している。(思)

二場面の音読劇練習をしよう⑥

- ~~かえるくんがすごく急いで良かった。~~ ・元気でいい。
- ・「太いそぎ」って書いてあるよ。 ・がまくんがもっと落ち込んでから。
- ・「とび出しました。」もあるよ。 ・ここはもう悲しい感じじゃない。 ・思いついたって感じ。
- ・「すぐやるぞ。」って言ったかたつむりくんは、どうやって動くのかな。 ・ゆっくり。
- ・がまくんが喜んでくれるかもって思ってる。
- ・任せてって感じでかっこよく言うといいと思う。 ・~~どうしてかたつむりくんに渡したんだろう。~~
- ~~・たまたまたからじゃない？~~ ・とにかく速く誰かに届けてほしかったからだよ。

かえるくんの動きを押さえる。

三場面の音読劇練習をしよう⑦

- ・かえるくんが窓から覗いてて良かった。 ・まだかなって感じ。
- ・早くかたつむりくんに来てほしいんだよ。 ・がまくんは怒ったように言う。
- ・どうせ手紙は来ないと思ってるから。 ・諦めてる感じ。
- ・「ばからしいこと言うなよ。」は、怒ってる。

がまくんが窓の外を何回見たのか。
また、どのようにして見たのかを実際にやってみて確認する。

話し合いをしてから、もう一度練習をして、登場人物の行動や台詞の言い方について確かめる。

四場面の音読劇練習をしよう⑧（本時）⑨

- ・がまくんの言葉がポイント。 ・さっきまで怒ってたのに、もう怒ってないよ。
- ・だんだん怒りがなくなっていった気がする。 ・ベットから出てきてよかった。
- ・がまくんの言い方が違うよ。 ・怒った感じと悲しそうな感じ。
- ・どうやって読めばいいんだろう。

がまくんの言い方に着目し、
がまくんの気持ちに変化していることを捉えるようにする。

がまくんは、どう話せばいいの？

- ・「でも、来やしない」っていうのは、怒ってる感じがする。
- ・「ばからしいこと言うなよ」って、ずっと怒ってたじゃん。
- ・ベットから起きてきてるから、もう怒りがおさまったんじゃない。
- ・かえるくんがお手紙待ってるって言ったから、少しうれしくなってると思うな。
- ・お手紙が一回も来たことがなかったから、まだ落ち込んでると思う。

かえるくんは、
どうして手紙のことを言ってしまったんだろう

- ・なかなかかたつむりくんが来てくれないから。
- ・がまくんが諦めてるから。・諦めさせないため。
- ・言った方が、待ってるよりも喜んでくれると思ったから
- ・がまくんに聞いてもらおうと、やさしく言ってると思う。

五場面の音読劇練習をしよう⑩

最初と最後の場面の挿絵を比較する。

- ・一場面と違って、幸せそう。
- ・にこにこしてる。 ・肩を組んでるよ。
- ・手紙が来るって分かってるから幸せなんだと思う。
- ・何を話してるんだろう。

- ・かたつむりくん遅いな。本当に来てくれてるのかな。
- ・本当に書いたよ。嘘じゃないからね。
- ・お手紙書いてくれてありがとう、かえるくん。
- ・君は親友だよ。 ・僕も今度書かね。
- ・これで音読劇ができる。

音読発表会をしよう⑪⑫⑬

- ・どこを発表する？
- ・〇〇ちゃんのかえるくんが、すごく急いでいてよかった。
- ・がまくんの悲しそうな気持ちが分かってよかった。

意欲的に音読発表会の準備に参加している。(態)

気持ちが表れるような読み方の工夫を確認しておく。

学習したことを生かし、登場人物になりきって音読することができる。(思)

【本時目標】 前時までのがまくんの行動と会話をもとに、がまくんの気持ちを想像することができる。

7. 実践を終えて

本単元は、「お手紙」を読んだ子どもたちの「音読したい」「劇にしたい」という思いから、「音読発表会をしよう」という学習目標ができた。「上手に音読をするためにどうしたらいいかな」という発問に対して、子どもたちから「練習する」「気持ちを考える」という声が上がリ、がまくんとかえるくんの気持ちを考えながら練習をしていくこととなった。劇をするグループの人数や劇に必要なものリストなどについても子どもたちと話し合いながら行ったことで、どのように劇をするかはっきりとしたイメージをもって取り組むことができた。あらかじめグループで使うお手紙を書いておいたり、窓を作ってきたりと楽しみながら劇を作っていこうとする姿が見られた。場面が進み、練習を重ね、友達の発表を互に見合っていくことで、登場人物の気持ちだけでなく、動きの表し方や小道具の使い方なども考えて行うことができるようになった。

本時では、まず四場面の劇の練習を行い、2グループが発表をした。その後、がまくんの「でも、来やしないよ。」という台詞をどのように読めばよいかについて話し合った。この一言に着目したことで、大きく分けて「怒ったように言う」と「悲しそうに言う」「悲しくて怒っている」という考えが出た。同じ言葉であるのに、相反するような読み方を考えていたことから、がまくんの三場面と四場面の気持ちの変化を捉えながら、なぜそのように読むのかについて考えることができた。

・子どもたちから出てきた「音読発表会をしよう」という目標から学習を進めたことで、積極的に学習を進める

姿が見られた。毎回、簡単な練習後にいくつかのグループが発表をしたことで、役の台詞の言い方や動き方、道具の使い方の工夫を共有することができ、さらなる意欲へとつながった。

- ・劇をするにあたり、台本として一人一人に本文が載ったプリントを用意したことで、登場人物の台詞の言い方や思いをじっくり考えて自由に書き込むことができた。この書き込みにより、教師は児童の考えを把握し、話し合いの際に活用することができた。児童は、自分の書き込みを見ながら劇の練習をしていた。
- ・教室に話型を掲示したことで、自然とその言葉が出てきて、話し合いをすることができていた。ペアで話し合う場面では、全体では発言できなくても、そのことについてどう思うかを友達に伝え、聞いていた児童も、その言葉に反応していた。長い文章のうちの一言に着目して話し合ったことで、なんとなく読むのではなく、「その言葉を大切に、気持ちをこめて読む」という意識ができた。

【課題】

- ・児童の発言が、クラスの全員で共有できていたかどうかは課題となった。本時の話し合いの中心となっていたのは、がまくんの「でも、来やしないよ。」という言葉をもとに読むかである。それまでの学習で話し合ったことを掲示していたこともあり、前時までのがまくんの言葉や様子を振り返り、ここでの台詞はどのように読めばよいのかを考えた児童がいたのだが、それがどこのことなのかを全員で共有することができなかった。何ページのどこの部分なのかをクラス全体で確認することで、叙述に基づいた考えをより引き出し、「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する」という、単元の目標にもさらに近づけたのではないかと考える。
- ・がまくんの台詞について、「悲しくて怒ってる」という混ざった気持ちなのではないかという発言について深く考える時間をとるとよかった。話し合い全体としては、友達の考えを聞いた後に「でもさ」「〇〇さんに似ていて・同じで」など、自然に友達の考えに対しての自分の考えを伝えようとする様子を見ることができた。しかし、「怒ったように言う」と「悲しく言う」が混ざっているとはどういうことなのかを全体で突き詰めて考える場を設けると、がまくんの手紙が欲しくてたまらない気持ちについて、より深く考え、ひびき合う姿へとつながっていったのではないかと感じた。